



企画展 暮らしの なかの道具

2025
1/25(土) ▶ 5/18(日)

入館無料日
1/25(土)・5/17(土)・18(日)



和がさ(からかさ)

竹のほねに、油をしみこませた和紙がはられています。



かさどくとな油のにおいがしますよ。大きな輪のようをデザインしたかさは、蛇の目に見えるので「蛇の目かさ」といいます。開きかけは2だん階。強い雨の時はかさがやぶれるので、と中で止めてせまくして使いました。

企画展 暮らしのなかの道具

●日時/2025年1月25日(土) — 5月18日(日)

まだまだいろんなものがあるんだよ



展示の一例です

かてきり器

「五串器」の焼印がおされています

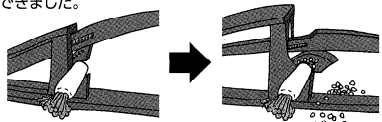


大根を短時間でみじん切りにすることができました。

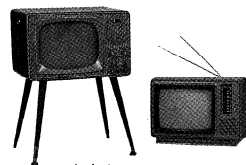
大根をごはん粒大にきざむために使います。ごはん粒大に切った大根は、米にまぜて炊き、かさを増やしました。

ごはんのふそくをおぎなうために、麦、あわ、ひえ、いも、やさい、海藻などをまぜて炊いたごはんのことを「かてめし」といいます。昭和30年代ごろまでは、白米をおなかいっぱい食べられない家庭がたくさんありました。

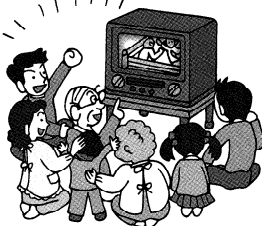
「五串」は一関市げんぴ地区をしめす昔の地名。この「かてきり器」は一関市で作られたことが分かります



白黒テレビ・カラーテレビ



日本でさいしょに作られた白黒テレビが発売されたのは、昭和28年(1953)。プロレスが大人気でした。家庭にカラーテレビがふきゅうしたのは、昭和39年(1964)に開さいされた東京オリンピックがきっかけでした。



当時のテレビは非常に高価なものでした

カメラ・8ミリカメラ

写真館に行かなくても、家庭で写真を撮るようになりました。8ミリカメラは動画をさつえいするさかい。どちらもフィルムに記録します。



レンズの数で「一眼レフカメラ」「二眼レフカメラ」といいます。写真店でフィルムを「げんぞう」「やさつけ」してもらわないと写真を見ることができません。



ダイヤル式電話とファクシミリ

電話をかける時は中央にあるダイヤルを回しました。

スマホはカメラ機能と電話機能がいっしょ



黒電話は昭和の後半にはほとんどの家庭で使われていました。ファクシミリ(ファックス)は、電話回線を利用して、紙に書いた文字や絵を送ることができます。家庭におかれ始めたのは1970年代のこと。ゆうびんよりはるかに早くとく便利なものでした。

せんたく板・たらい

電気せんたくきを使えるようになるまで、せんたくは時間のかる家事でした。とくに、水のつめたい冬には、つらい仕事でした。

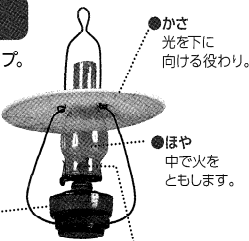
水がためなくて、しもやけやあかぎれがでそう...



たらいに水をため、何本ものみぞをほったせんたく板にせんたく物をこすりつけてよごれを落としました。

石油ランプ

石油をねんりょうとするランプ。明治時代にヨーロッパからもたらされた明かりの道具です。すぐに国内でも作られるようになりました。



●ピン... 石油を入れます。
●芯(しん) 布製(ぬのせい)。石油がしみこみます。先さんに火をつけます。

●かさ 光を下に向ける役わり。
●ぼや 中で火をともします。

レコードプレーヤー

レコードにはうずまきじょうにみぞがきざまれています。レコードプレーヤーが少しゆれるだけでも、はりがべつのみぞに自動してしまい、音がつながらなくなります。



【使い方】
①コンセントをさしこみます。
②レコードを円ばんの上にセットします。
③アームをもち上げると円ばんが回転を始めます。
④回転しているレコードのはじに、アームの先につけているはりをそっと乗せます。

ラジオ・ラジカセ

ラジオ放送が始まったのは大正14年(1925)。テレビがふきゅうするまで、電波でじょうほうを受けとる道具の代表でした。

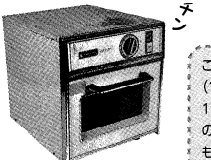


どこでも音楽をきくことができるため人気。ラジオ番組のくろくもできました

1970年代に入るとカセットテープに録音するキノウを内ぞうしたラジオカセットレコーダー(ラジカセ)が出回りました。

電子レンジ

火を使わずに食べ物を温められるべんりな道具。食品にふくまれている水分を電波で発熱させます。



この家庭用電子レンジは昭和46年(1971)に発売されました。1年間でもらえる給料が平均100万円の時代、かかるとは8万円台!それでも当時もつと安かったそうです。

電気すいはんき

昭和30年代、発売初期の電気すいはん器。

火をつかうかまど炊きとちがいスイッチをおすだけでごはんが炊けるととても便利な家電でした。

でも、保温きのうはありませんでした



パタンひとつでごはんがたけるなんて、すてきね!

■展示解説会 ●申込不要 ●参加料/入館料のみ

●日時/1月25日(土) 13:30~14:10 5月 5日(金) 13:30~14:10
2月23日(日) 15:10~15:50 5月11日(日) 15:10~15:50
3月 8日(土) 13:30~14:10 5月17日(土) 13:30~14:10
4月29日(火) 13:30~14:10 5月18日(日) 13:30~14:10
5月 4日(日) 13:30~14:10

■館長講座

●定員/50名(電話申込必要)
●参加料/無料
●申込電話番号/0191-29-3180

「雪国の春—柳田國男を読む—」

●日時/2月23日(日) 13:30~15:00

「餅の文化史」 ●日時/5月11日(日) 13:30~15:00

一関市博物館

「道の駅 蔵美溪」隣り



いちのせまはくぶつかん
一関市博物館

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで) 休館日 毎週月曜日(祝日の場合は翌日)

入館無料日 企画展の初日 1/25(土) 国際博物館の日 5/17(土)、18(日)

入館料 一般 300円(240円) 高校生・大学生 200円(160円) 中学生以下 無料

※()内は団体(20名以上)割引料金

次の方々の入館料は免除といたします。①障がい者・介護者の方(障がい者手帳などを提示願います。)②65歳以上の一関市民の方(年齢・住所が証明できるものを提示願います。)

